授業科目名： 政治学	教員の免許状取得のための 選択必修科目（中学社会） 選択科目（高校公民）	単位数： ２単位	担当教員名：宮崎　文彦 担当形態：単独

実務内容 （実務家教員の場合）	
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校社会及び高等学校公民）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 中学校社会：「法律学、政治学」 高等学校公民：「法律学（国際法を含む。）、 政治学（国際政治を含む。）」

「学位授与の方針」との関係

政治学は文字通り「政治」についての学問ということになるが、この政治とは本来様々な多様性、多様な意見・価値観を持つ人びとがどう共生していくために求められるものである。その意味において、本学における「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念の人と人との共生のあり方の根本について考えるものである。古代ギリシア・ローマから続く政治学の歴史を学ぶ一方で、今日の日本の政治をめぐる状況との関係について考える中で、専門知や統合知を使った解決のための実践や、多様な共生社会の創造への貢献にどのようなことが求められるのか、を学ぶことを目指す。

授業の到達目標及びテーマ

「政治」と聞くと、私たちは、政治家や官僚といった「専門家」の仕事として、日常からは遠いものとして考えてしまいがちである。しかし、本来、政治というもの は、さまざまな価値観をもった人々の利害を調整したり、「公共的な問題」を解決したりする、私たちにとってなくてはならないものである。

本講義では、古代ギリシア・ローマから綿綿と続く政治理論の知見を学びながら、現代の私たちにとっての政治の意義や重要性を学ぶ。

授業の概要

スクーリングでは、指定する教科書をベースに批判的なコメントも加えながら、講義を行う。また、講義は一方的なものではなく、ときに参加される皆さんの感想や意見を聞きながら、進めていく「アクティブラーニングの手法」を用いての実施となる。

授業計画

第１回：「政治」とは何か？　私たちにとっての意味は？

第２回：「公」と「私」　政治が対象としているものはなにか（第６章１「公」と「私」）

第３回：ナショナリズムとコスモポリタニズム 国際化のなかでの国家のあり方、私たちのアイデンティティ（第６章３「ナショナリズムとコスモポリタニズム」）

第４回：国際関係　国民国家と国際社会のあり方（第７章２「主権国家システムの形成と拡大」）

第５回：国際制度　国連の歴史とこれから（第 14 章３「グローバル・ガヴァナンスと国際制度」）

第６回：デモクラシー（１）デモクラシーの起源（第 18 章１「古代の民主政と近代の民主政」）
第７回：デモクラシー（２）近・現代におけるデモクラシーと大衆化
（第 18 章２「近代における自由民主主義体制の成立」）
第８回：デモクラシー（３）現代のデモクラシー論（第 18 章３「現代民主主義論」）
第９回：デモクラシー（４）選挙制度（第 22 章１・２「投票」「選挙制度」）
第１０回：デモクラシー（５）メディアと世論への影響（第 21 章２「マスメディアの世論への影響」）
第１１回：自由と自由主義（１）「自由」とは何か？
（第３章１・２「古典的自由主義」「古典的自由主義の展開」）
第１２回：自由と自由主義（２）現代における自由主義理論
（第３章３「福祉国家型自由主義とその批判」）
第１３回：福祉国家論（１）福祉国家の成立と「自助・公助・共助」
（第４章１・２「福祉国家の政策レパートリー」「福祉国家をもたらしたもの」）
第１４回：福祉国家論（２）これからの福祉国家や年金制度のあり方
（第４章３「福祉国家がもたらしたもの」）
第１５回：総括　私たちと政治、政治にどうかかわっていくか（第 22 章３「政治参加の多様化」）
定期試験
＊スクーリングでは特に「デモクラシー」に関する内容を中心に包括的に取り上げる。

教科書
久米郁男ほか 編（２０１１）『政治学 補訂版 (New Liberal Arts Selection)』有斐閣

参考文献
（１）藤井浩司・縣公一郎 編（２００７）『コレーク行政学』成文堂
（２）苅部直ほか 編（２０１１）『政治学をつかむ』有斐閣
（３）杉田敦（２０１３）『政治的思考』岩波書店

学生に対する評価
スクーリング評価（２５％）、レポート評価（２５％）、科目修得試験（５０％）の割合で総合して評価する。